そま師 森の名手"藤井恒氏"
～男の切りっぷり～

名人　藤井　恒(71)　岐阜県加茂郡白川町
聞き手　柘植　啓太　岐阜県立加茂農林高等学校2年

平成17年取材

「森の名手・名人」とは、森に関わる仕事や地域生活に染み込んだ営みのうち、優れた技をもってその業を極め、他の模範となっている達人で、毎年、全国で約100名が選定されています。岐阜県においては、現在、33名の「森の名手・名人」を「森の"聞き書き甲子園"」に参加した高校生が「聞き書き取材」をしたものの中から誌面の関係上要点を抜粋したものです。なお、年齢、住所、学年は取材当時のものです。

▼藤井　恒さん

1．この仕事についたきっかけ

15才の時、父が急死して少しでも現金をとらなければ生活ができんかった。会社に入れば少しの金しかもらえず山仕事をやれば仕事をしただけもらえる。だから山にいって金をとりにいったなぁ。百姓をやったり、たき木を切りにいったり、あの時分には燃料はガスみたいないもんで、暖房からご飯たくやつも全部たき木やったな。やもんでたきもんを切りにいかなあかんかったんや。

中学校を卒業した年に薪を一尺二寸だいたい36㎝ぐらいに切ってそいつを割って棚につんで乾かしてから針金で束ねた。俺は1日1棚で100円の日当がとれたな。その年の秋に誘われて"そま"の仕事に行った。"そま"の仕事は1石切って45円やった。俺は1日に5石ぐらい切ったもんで1日200円位とれた。当時は製材所や、会社で働いても100円はもらえんかった。それにくらべると"そま"の仕事の給料はよかったんやわぁ～。

当時は、日本が戦争に負けて復興にたくさんの山の木が切られ山仕事はうまくいったんや。昭和30年頃になると山の仕事がなくなってきたんや。んで山仕事をしていた人でサラリーマンになった人もいる。俺は仕事があったもんで会社へ行かず、ずっと続けられたけど。

▲チェンソーの目立ては重要な仕事

2．"そま"の仕事

この付近では一般に木を切る人を"そま"というけどなぁ。"そま"の仕事時間は朝8時～4時ぐらいやなぁ。夏も冬もだいたい同じ時間やわぁ。木切るときは1人のほうが能率あがるわ。大きい山の場合は、複数でやると危険であぶないんやぁ。木を切って出す時は1人でやれんで2、3人でやるなぁ。

木の切り方はまずその木をどこに倒すかまず確認するんや。もし倒す方向に木があった場合、ロープなどで引っぱって倒す木があたらんようにしてやるんや。そんで倒したい木に受け口をつくって、また倒す方向を見るんや。これをやっとかんと倒したとこに石なんかがあって木が石にあたると製品にならんからなぁ。確認したらおいくちといって受け口の反対から切る作業をするんや。ある程度切ったらクサビを使って倒すんや。これがなかなか難しいんや。

仕事で身につけているものは、チェンソーやろ、それにヘルメットに、防音栓、ナタ、手オノ、くさび、巻き尺、手ノコぐらいやなぁ。服装は夏でも山仕事する人はみんな長袖きとらせるわ。んで手袋に地下足袋ぐらいやなぁ。道具は大事やで、仕事前に必ず確認するなぁ。チェンソーなら刃をといだりゴミがつまってないか確認したりするなぁ。

作業する時は、上を見て木の傾き具合、枯れた枝や落ちそうな枝がないか見るんや。3年前俺は、松の枝が風で落ちてきて1週間の入院、1ヶ月の静養をよぎなくされたんや。だが近頃は、松食い虫での松枯れ木がめだつとるなぁ。やで山に入るときはよう確認せなあかんなぁ。

3．木について

ええ山かぁ、植林山について言えば枝打ちがしてあって間伐が充分にしてあることや。間伐をしてないと陰になった木が枯れてくる。大きくなってからの間伐は根の張りが悪く木も長く伸びていて残された木は、風や雪などで倒れやすいんや。天然木は、年輪が細かく年数がたっていると艶がでて建具材や細かく切って使う造作材に適しとるなぁ。だが曲がった木が多く、枝も多いんやぁ。人工林はまっすぐな木が多くとれて枝打ちや、手入れされた原木は無節の角材ができて高い値段で取引されるわぁ。しかし天然木と比べると目が荒く艶が出んなぁ。見分け方は何年も木を見て経験をつまんと分からんと思うなぁ。

木を切る季節は9月～12月頃切るのが一番ええなぁ。木の生育が止まって水分が少ないんや。んでカビやなんかになりにくいなぁ。逆に5月～7月やと木に虫が入ってまって木の価値が下がるんや。今は外材が多くてスギ、ヒノキの値段が安くなっとるんや。やで少しでもいい状態で市に出したいんや。

他には風で、もまれた木があってな、そういう木の特徴は、樹皮にスパッと切れたようなあとがついとるんや。そんで、製材したときにスジがはいって価格として落ちるんや。現在は乾燥機を使うもんで季節は気にしんのや。

山から木を出すときは、切った木そのまま出したら木が傷ついてしまうやろ？そやで木の面をとってやるんや。そうすると木に傷がつきにくく出しやすくなるわぁ。やけどスギでもヒノキでも細い部分は、もったいないと思うやろうけど、細い所は出すのにお金がかかったり、加工費もかかって採算があわんのや。

4．造林について

昔は自分の孫のために植林から間伐、枝打ちまで、やったんや。木は植林してから60年～80年たって成木になるんや。自分が植えた木を自分の代に切ることはできんわけや。植林はまず苗を畑でつくって、畑から苗を掘りだしとったんや。掘りだしてからの管理が大切なんや。それを背板という道具につけて背負ったな。植林は1日にだいたい200本ぐらいやなぁ。木を植えてもやっぱり枯れる木もあるんや。自家製の苗は枯れることが少なかったなぁ。今は美濃加茂の富加町や静岡の苗が多いなぁ。それでトラックで運ぶことになるもんで下になった苗はいきるんや。"いきる"ってのはな、下になった苗が蒸されるってことなんや。んで根が腐って根がつかんのや。

植林してからも天候とかに悩まされたなぁ。とくに大雪が降ったりしたら植えた苗が埋まってしまって曲がった木になってまうんや。そやで雪の降ったあとは必ず雪起こしをしに行ったんや。

▲5m末口62cmの桧。このような大木は民有林では少なくなったと語る藤井さん

5．仕事での苦労・喜び

山に行けばそりゃ苦労はたくさんあるわぁ。特に木を倒す時、思った方向に倒れんもんで倒すまでにずいぶん時間くったなぁ。逆に思い通りに木が倒れたときはうれしいなぁ。それに木が密集したとこで、倒れる間のないとこに倒さないかんときもある。それを無理に倒して、うまくいった時は働く身の小さな喜びやなぁ。

冬になると雪がふるやろ、そうなると切った木が山から出せんくなってしまうんや。それに切り口の色が変わってしまうんや。木は製品やで、はよう山からださなあかんけど、雪でトラックが上がっていかんもんでなかなか出せんのやわ。自然の力には、かなわんなぁ。

6．後継者の問題

山で働く後継者のないことはこの地方ばかりじゃなく日本の林業の大きな問題となっとるなぁ。原因は、きつい、汚い、危険、の3K産業やなぁ。山で働くいうことはそりゃ泥で汚れたり、チェンソーを1日使うわけやで、くたびれるわなぁ。それに今じゃ材木が安うなってまって採算があわんようになってきたなぁ。全国的に見ても数は少ないが作業員を森林組合や役場の職員として人員を確保している自治体があるなぁ。白川町森林組合でも数人の作業班があるけど平均年齢が60歳位で若もんが少ないんやぁ。

7．これから

木は切るために植林して手入れして育てるんや。昔の人は木を宝のようにして、苦しい生活の中でも切らずに暮らした人たちが沢山いた。もうその時代は過ぎたなぁ。3m末口18㎝の木が26㎝位になると一本の値が安くなる。適期になったら切って金にして回転するのがこれからの林業の進む道やないかぁ。木が大きくなると材木の出材の経費もかかるしな。それに現代の人は、100年以上より50年～60年位住んで建て替えると考えてる人が多いんやないかなぁ。

俺は枝打ち、間伐をしてやって少しの風でも倒れん木を育てたいな。高価で取引される木は枝打ちがしてあって、柱を引いたときに節が出ない木や。今の市場相場は、直径18～22㎝で3mまできるんや。この寸法は今でも高価やなぁ。直径24㎝以上は安いが、32㎝以上は高く取引されるなぁ。

これからは人工林が主流になってきてるからなぁ。やで枝打ちした後すぐに間伐をしてやるんや。みっともないぐらいに間伐をしてやっても2～3年すると枝が伸びて美林になってくるんやぁ。反対にもう少し間伐をしたほうがええかなぁっと思った山は、2～3年たつと枯れ木ができるなぁ。やで誰が見ても美林って思われる山を作っていきたいなぁ。

今じゃ山で働く人が少ないし、材木の値段に比べて賃金が高い理由で全伐した山林以外は植林が少なくなったな。やもんで間伐が多いなぁ。この技術を多くの人に教えていって若い"そま"が増えるといいなぁ。

▲雪の中で慎重に元切り

名人　藤井（ふじい）　恒（ひさし）さんのプロフィール

- ●生年月日：昭和8年8月7日生まれ
- ●出身地：岐阜県加茂郡白川町黒川
- ●職　業：そま師

昭和58年10月白川町町有林管理人に任命される。現在も継続中。受け持ちは黒川地区の町有林約135ha。境界の見回りや森林内の状況管理を行う。所有林の手入れとともに、永年にわたり伐木造材に携わってきた。伐採時には、豊富な経験を生かし木の倒す方向、架かり木の有無等を充分配慮しながら伐採し、伐採した木を1本1本吟味しながらその木に合った採材をし、東濃ヒノキのブランドを充分生かし付加価値の高い東濃ヒノキの生産に努力している。
昭和041年：材木造林士認定証取得
昭和135041年：林業架線作業主任者免許取得
平成：地域林業の発展に貢献したとして、東濃ヒノキ白川市場協同組合より表彰を受ける。

※原本は長文のため、文章の一部を割愛しています。

【森の名手・名人編集担当
㈳岐阜県緑化推進委員会　佐藤正吉】